

3. 地域経済の動向

(1) 北海道



北海道地域では、景気は下げ止まりつつある。

- ・ 鉱工業生産は緩やかに増加している。
- ・ 個人消費はおおむね横ばいとなっている。
- ・ 雇用情勢はさらに厳しさを増している。

前回調査からの主要変更点

	前回（平成14年2月）	今回（平成14年5月）	
総括表現	悪化のテンポが緩やかになっている	下げ止まりつつある	
鉱工業生産	おおむね横ばい	緩やかに増加	
観光	足踏み状態	持ち直しの動き	
個人消費	弱含み	おおむね横ばい	
雇用情勢	厳しさを増している	さらに厳しさを増している	

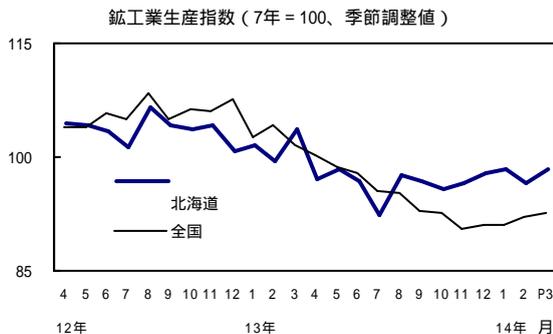
1. 生産及び企業動向

(1) 第一次産業は、生乳生産、水産業ともに前年を上回っている。

生乳生産（前年同期比）は、飲用牛乳向け、乳製品向けが増加したことなどから、1～3月期は3.1%増となった。水産業（主要10港、前年同期比）は、スケソウダラが増加したことなどから、1～3月期は水揚量では15.7%増、金額でも8.3%増となった。

(2) 鉱工業生産は緩やかに増加している。

食料品・たばこは、冷凍水産物やビール等で動きがみられた。紙・パルプは、印刷用紙を中心に在庫調整が続いているものの、輸出向けに動きがみられた。窯業・土石は、公共工事関連需要の減少等から低調に推移しているなか、道外向けのセメント等に動きがみられた。金属製品は、橋りょうに動きがみられたものの、このところ減少した。電気機械は、携帯電話の新型機種製造に伴う受注増から無線通信装置等を中心に増加した。



域内主要業種の動向(季節調整値、前期比増減率) (%)

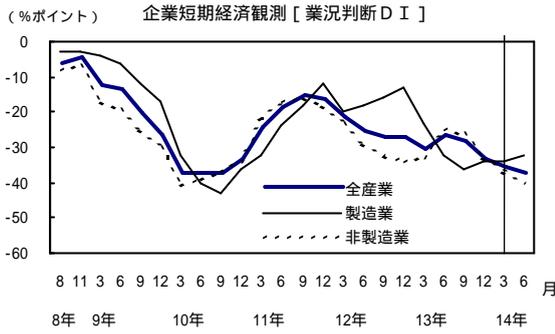
	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		10～12 月期	1～3 月期	1～3 月期	1～3 月期
食料品・たばこ	24.2	1.2	1.2	7.9	3.8
紙・パルプ	13.1	1.8	2.0	1.8	1.0
窯業・土石	10.8	1.9	0.8	1.5	7.2
金属製品	8.4	10.4	2.6	1.2	3.5
電気機械	8.0	0.9	12.9	11.0	39.3
鉱工業	100.0	1.1	1.2	5.2	6.0

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。

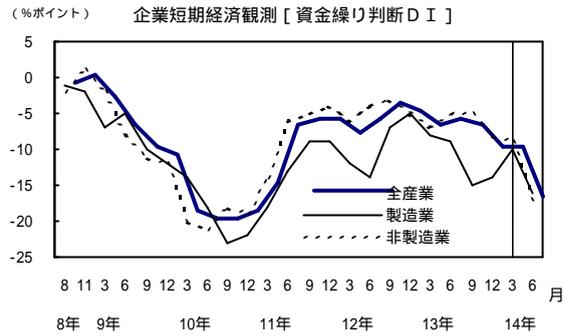
2. 1～3月期は速報値。

(備考) PIは速報値。

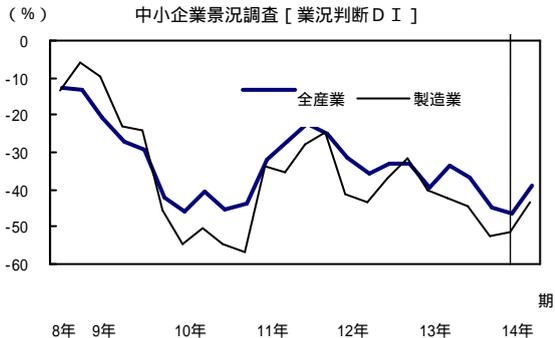
(3) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が拡大しており、資金繰り判断は「苦しい」超幅が横ばいである。
 企業短期経済観測調査 [業況判断D I、資金繰り判断D I] 及び中小企業景況調査 [業況判断D I]



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。6月は予測



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。6月は予測



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。14年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査 (4月調査) [企業動向関連 (現状判断)]

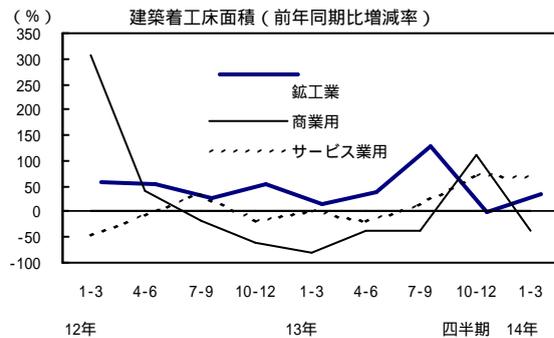
「荷主企業の在庫調整により、依然として出荷量が減少したままである (輸送業)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(4) 設備投資の13年度実績見込みは12年度実績を下回っている。

企業短期経済観測調査 [設備投資 (3月調査)]

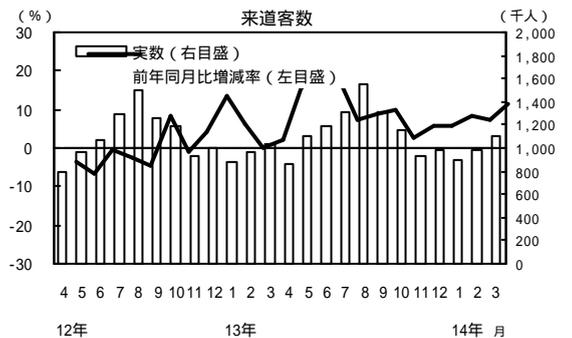
	(前年度比増減率、単位：%)	
	13年度実績見込み	14年度計画
全産業	15.3 (1.2)	8.1
製造業	19.8 (2.1)	20.4
非製造業	12.9 (0.7)	2.0

(備考) ()は前回(12月)調査比修正率。電気・ガスを除く。



(5) 観光は持ち直しの動きがみられる。

来道客数 (前年同月比) は、1~3月期は3.3%増となった。米国における同時多発テロの影響等による海外旅行からの振り替え需要に加え、台湾、香港、韓国等を中心とした海外からの観光客数も増加している。



(備考) 北海道観光連盟調べ。

2. 需要の動向

(1) 個人消費はおおむね横ばいとなっている。

大型小売店販売額及び乗用車新規登録・届出台数

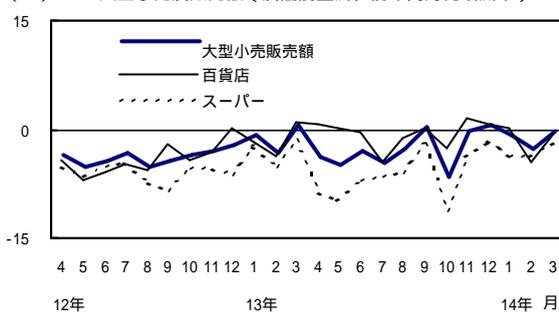
百貨店は、1月はリニューアル効果等により飲食料品が好調であったこと等から前年を上回って推移したものの、2月は暖冬であったことから冬物衣料セールが低調で4か月ぶりに前年を下回った。3月は好天から婦人服を中心に春物衣料に動きがみられ、ブランド品を中心とした身の回り品は引き続き好調に推移した。

スーパーは、衣料品の不振や主力の飲食料品の市況安等から前年を下回って推移しているものの、春物衣料に動きがみられた。

景気ウォッチャー調査(4月調査)[家計動向関連D I (現状判断)]

「来客数は微増しているが、商品単価の下落、特に品質が向上した中国製品の普及等による家庭用品関係の価格下落が著しく、同じ数量を販売しても前年の売上に追いつかない状態が続いている(スーパー)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(%) 大型小売店販売額(店舗調整済、前年同月比増減率)



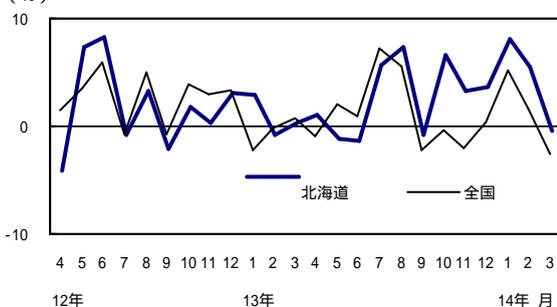
(前年同期比増減率、単位：%)

	13年4-6月	7-9月	10-12月	14年1-3月
大型小売店	5.2	3.8	3.1	2.4
百貨店	0.2	2.0	0.1	1.5
スーパー	8.5	4.9	5.1	3.0
乗用車	1.9	2.3	3.1	1.3
景気ウォッチャー	41.2	35.9	32.5	34.9

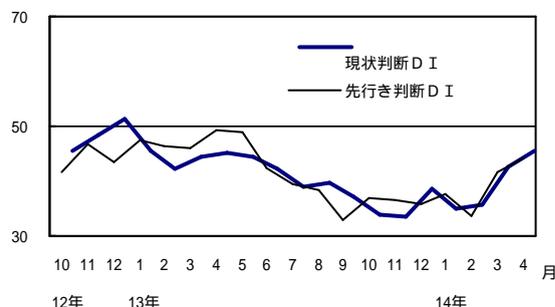
(備考) 1. 大型小売店販売額は店舗調整済。

2. 景気ウォッチャー調査の数値は家計動向関連の現状判断D Iの3か月単純平均。

(%) 乗用車新規登録・届出台数(前年同月比増減率)



景気ウォッチャー調査(家計動向関連D I)

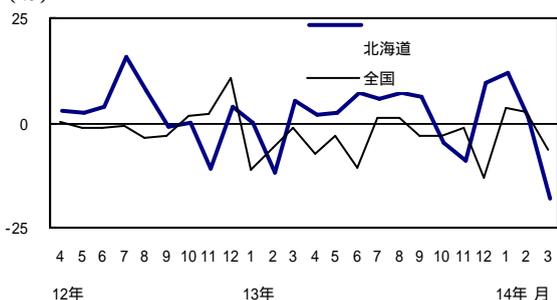


(2) 住宅建設は減少している。

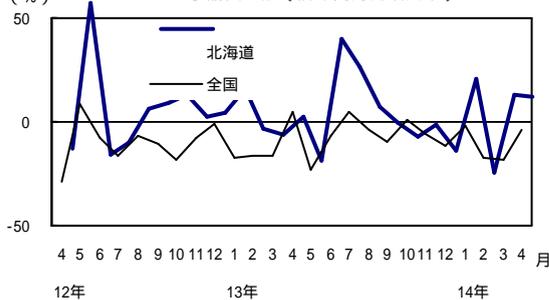
持家が前年を下回っていることに加え、貸家と分譲が3月に大きく前年を下回ったこと等から減少している。

(3) 公共投資は前年を下回っている。

(%) 新設住宅着工戸数(前年同月比増減率)



(%) 公共工事請負金額(前年同月比増減率)

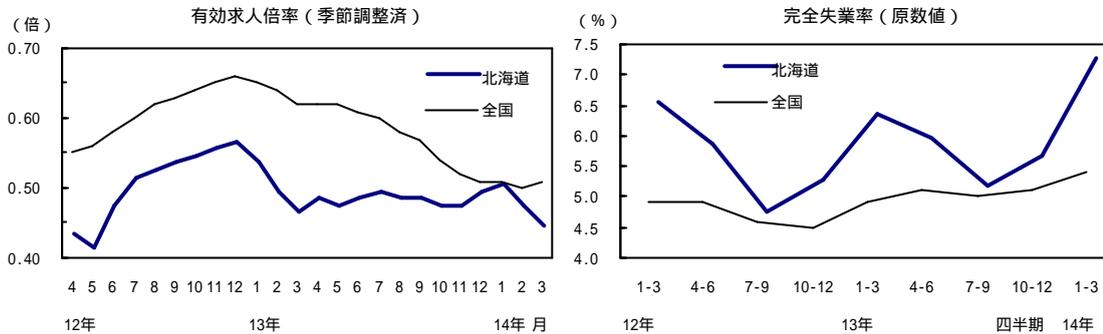


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢はさらに厳しさを増している。

有効求人倍率及び完全失業率

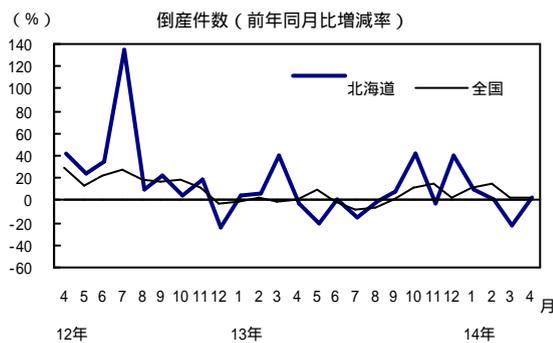
有効求人倍率は低下している。完全失業率は前年同期を上回り、高い水準にある。



景気ウォッチャー調査 (4月調査) [雇用関連 (現状判断)]

「求人に関して、パート、アルバイト等の比率が高いという状況に変化がない (求人情報誌製作会社)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(2) 企業倒産は件数が減少している。



	(件、億円、%)				
	13年4-6月	7-9月	10-12月	14年1-3月	4月
倒産件数	191	204	203	201	63
(前年比)	19.1	15.0	12.2	16.6	8.7
負債総額	3,845	999	618	887	195
(前年比)	323.2	2.9	9.4	25.2	31.4

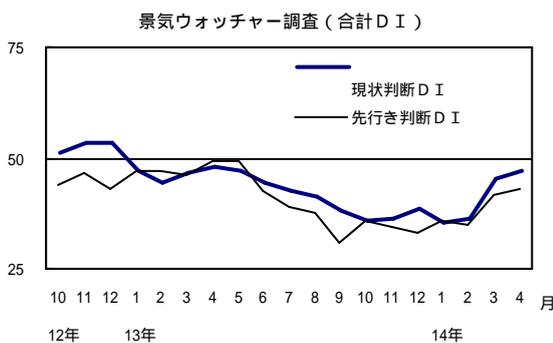
景気ウォッチャー調査 (4月調査) [合計DI (特徴的な判断理由)]

<現状>

- ・ブロードバンド環境の整備が進んできており、それらを基礎としたビジネスやプロジェクトが周囲で数件動き出すなど、投資意欲が以前より高まっている (通信業)
- ・公共事業の減少、商業の衰退等で、求人の改善の兆しは全くなく、特に若者の雇用情勢は厳しさを増している (新聞社 [求人広告])

<先行き>

- ・サッカーワールドカップによる消費の喚起や、それが醸し出す消費に対する心理的な好影響が期待できるものの、販売単価の持続的な低下傾向等も懸念される (スーパー)



(2) 東北



東北地域では、景気は依然として厳しい状況にある。

- ・ 鉱工業生産はおおむね横ばいとなっている。
- ・ 個人消費はやや弱含みしている。
- ・ 雇用情勢はさらに厳しさを増している。

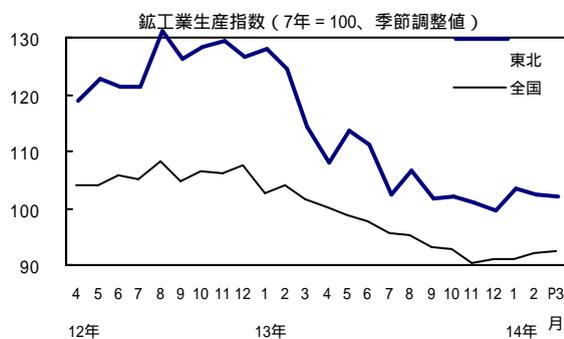
前回調査からの主要変更点

	前回（平成14年2月）	今回（平成14年5月）	
総括表現	大幅に悪化している	依然として厳しい状況にある	
鉱工業生産	減少	おおむね横ばい	
個人消費	弱含み	やや弱含み	
住宅建設	減少	緩やかに減少	

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産はおおむね横ばいとなっている。

電気機械工業は、IT関連全般に在庫調整が進み、海外向けの電子部品を中心に生産は増加に転じた。食料品は、冷凍水産物の動きが一進一退で推移している。一般機械は、電気機械等の設備投資の低迷が解消されず、減少が続いている。窯業・土石は、セメントが減少している一方で電子部品向けファインセラミックスが増加し、全体では横ばいに推移している。



(備考) Pは速報値。

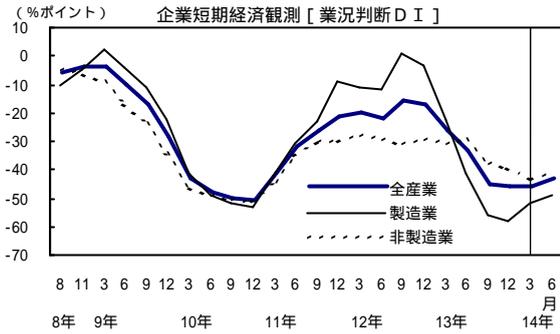
域内主要業種の動向(季節調整値、前期比増減率) (%)

	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		10~12 月期	1~3 月期	1~3 月期	1~3 月期
電気機械	34.8	0.6	9.9	12.8	16.8
食料品・たばこ	9.3	0.5	2.9	1.8	9.9
一般機械	7.5	4.6	6.0	6.7	11.9
繊維	6.7	0.9	0.9	3.2	1.2
窯業・土石	6.3	8.4	0.5	0.8	2.4
鉱工業	100.0	2.7	1.7	4.5	8.5

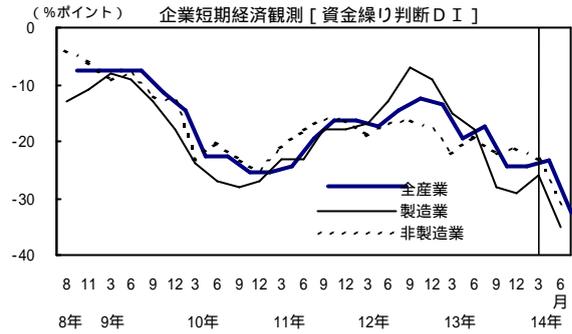
(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い15業種。

2. 1~3月期は速報値。

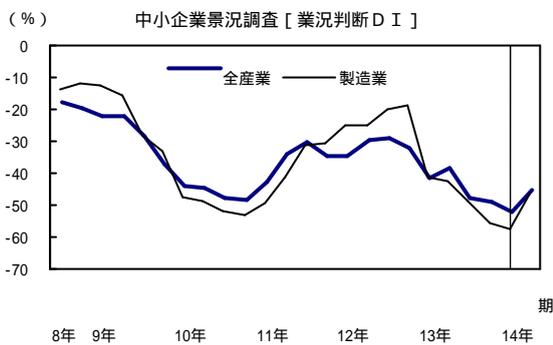
(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が、資金繰り判断は「苦しい」超幅がそれぞれ横ばいである。
 企業短期経済観測調査 [業況判断DI、資金繰り判断DI] 及び中小企業景況調査 [業況判断DI]



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。6月は予測。



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。6月は予測。



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。14年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査 (4月調査) [企業動向関連 (現状判断)]

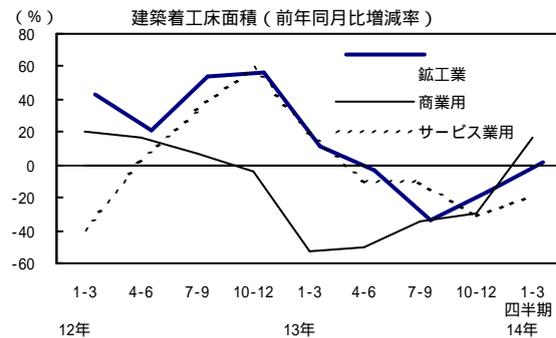
「携帯電話関係が落ち込んだままの状態が続いており、民生関係のOA機器や住宅設備機器関係も低迷した状態が続いている (一般機械器具製造業)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(3) 設備投資の13年度実績見込みは12年度実績を大幅に下回っている。

企業短期経済観測調査 [設備投資 (3月調査)]
 (前年度比増減率、単位：%)

	13年度実績見込み	14年度計画
全産業	29.3 (0.5)	13.7
製造業	36.1 (2.0)	18.9
非製造業	19.2 (1.3)	7.6

(備考) ()は前回 (12月) 調査比修正率。



2. 需要の動向

(1) 個人消費はやや弱含んでいる。

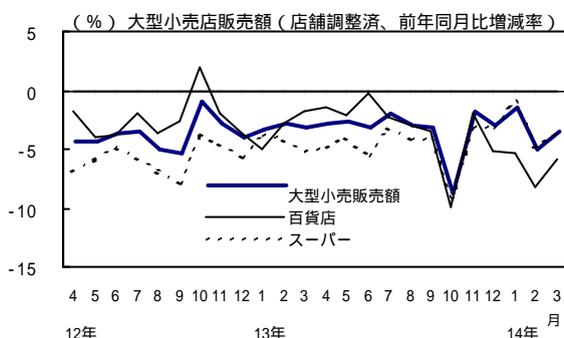
大型小売店販売額及び乗用車新規登録・届出台数

百貨店は、主力の衣料品は、気温が高かったため冬物衣料の動きが鈍く前年を下回ったものの、春物衣料等では動きがみられた。一部店舗における改装工事に伴い客数が減少したことや、民事再生法を申請した百貨店の店舗での売上悪化の影響等により前年を下回っている。

スーパーは、主力の飲食料品では、青果の相場安、牛肉の売上減少により前年を下回った。また、前年の家電リサイクル法施行前の駆け込み需要による反動減により家電の動きが鈍かったことなどから、全体では前年を下回っている。

景気ウォッチャー調査（4月調査）[家計動向関連D I（現状判断）]

「特選品などが好調で、客単価、買上単価ともに前年水準を上回り、購買率も上昇しているが、来客数の微減傾向は依然続き、一長一短の状況が続いていることからあまり変わらない（百貨店）」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

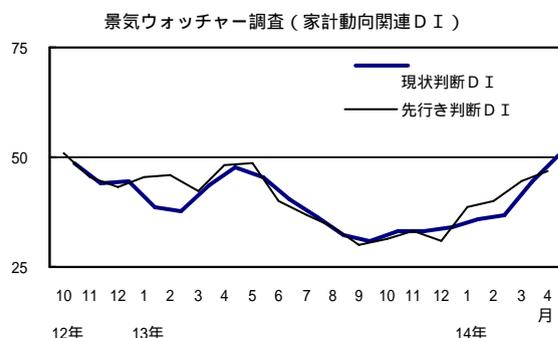
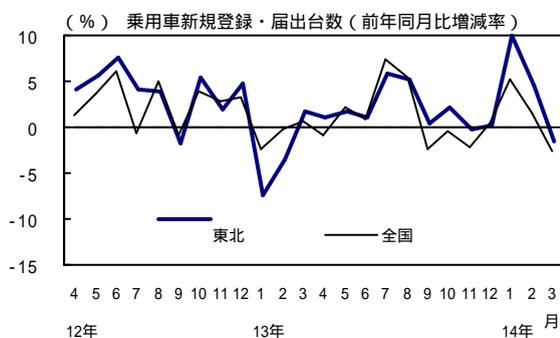


(前年同期比増減率、単位：%)

	13年4-6月	7-9月	10-12月	14年1-3月
大型小売店	3.7	3.5	5.3	4.0
百貨店	1.3	2.9	5.7	6.3
スーパー	4.8	3.7	5.1	2.9
乗用車	0.5	1.9	1.0	0.5
景気ウォッチャー	40.8	29.6	29.8	35.5

(備考) 1. 大型小売店販売額は店舗調整済。

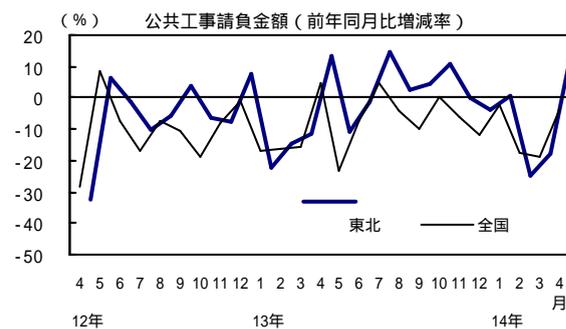
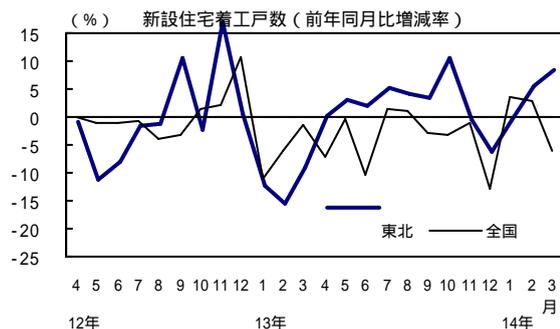
2. 景気ウォッチャー調査の数値は家計動向関連の現状判断D Iの3か月単純平均。



(2) 住宅建設は緩やかに減少している。

貸家は前年を上回っているものの、持家、分譲が前年を下回り全体では緩やかに減少している。

(3) 公共投資は前年を下回っている。

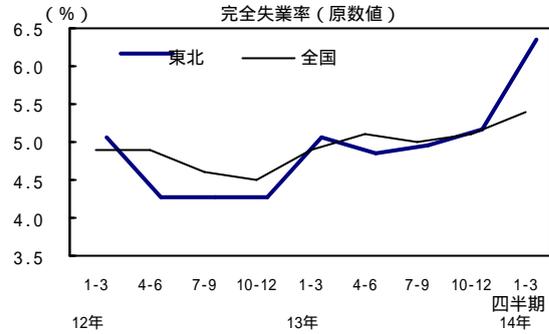
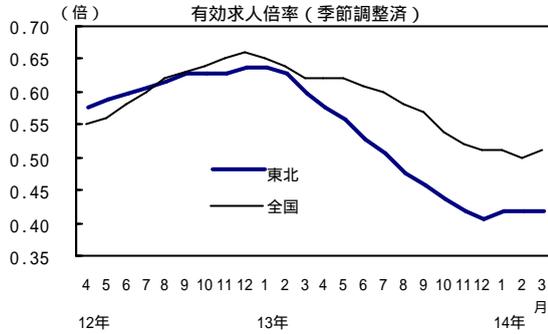


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢はさらに厳しさを増している。

有効求人倍率及び完全失業率

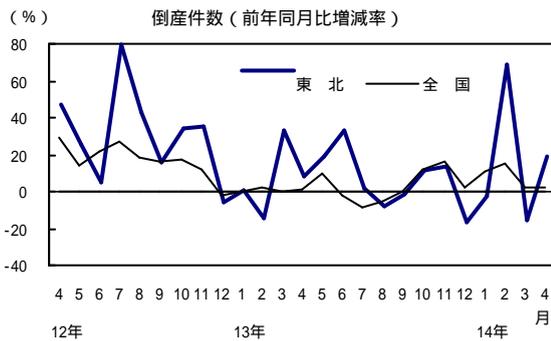
有効求人倍率は、おおむね横ばいで推移している。完全失業率は、前年同期より大幅に上回り、高い水準にある。



景気ウォッチャー調査(4月調査)[雇用関連(現状判断)]

「新規求職者数が6か月連続で前年実績を上回って増加し、有効求職者数も11か月連続で前年実績を上回るなど、求職者数が滞留している(職業安定所)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(2) 企業倒産は件数が増加している。



	(件、億円、%)				
	13年4-6月	7-9月	10-12月	14年1-3月	4月
倒産件数 (前年比)	392 12.3	357 10.1	385 3.8	402 3.1	139 12.1
負債総額 (前年比)	1,104 64.6	1,990 28.3	1,162 1.5	1,637 19.0	819 125.1

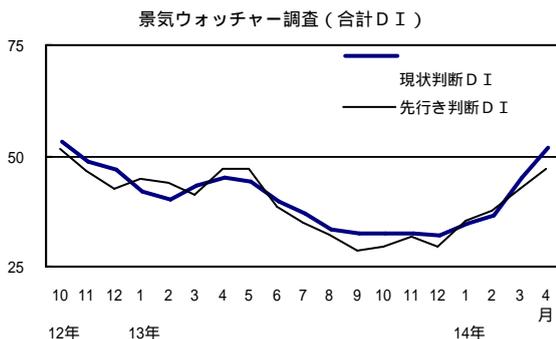
景気ウォッチャー調査(4月調査)[合計DI(特徴的な判断理由)]

<現状>

- ・最近畜産農家の診断をしているが、BSEの関係で値崩れしていた市場価格が戻りつつある(経営コンサルタント)。
- ・車検を受けて保有期間を延長する客が増え、中でも法人需要は現有車保有の長期化の動きが顕著で、特に小型トラックの販売量が半減している(乗用車販売店)。

<先行き>

- ・航空貨物数量が2か月連続して前年実績をクリアしており、輸出入業者にもオーダーが増えている(輸送業)。



(3) 北 関 東



北関東地域では、景気は下げ止まりつつある。

- ・ 鉱工業生産はおおむね横ばいとなっている。
- ・ 個人消費はやや弱含んでいる。
- ・ 雇用情勢は依然として厳しい。

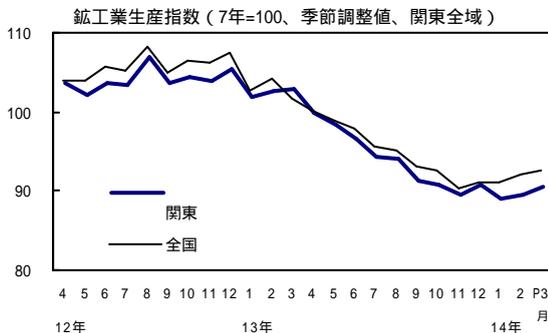
前回調査からの主要変更点

	前回 (平成 14 年 2 月)	今回 (平成 14 年 5 月)	
総括表現	一段と悪化している	下げ止まりつつある	
鉱工業生産	大幅に減少	おおむね横ばい	
雇用情勢	さらに厳しさを増している	依然として厳しい	

1. 生産及び企業動向

1) 鉱工業生産はおおむね横ばいとなっている。(関東全域)

電気機械は、セパレート形エアコンや半導体関連などの在庫調整が一巡し、生産や出荷に下げ止まりの兆しがみられる。一般機械はこのところ一進一退で推移しているが、3月は半導体製造装置や印刷機械などを中心に前月比で増加した。輸送機械は基調としておおむね横ばいにあるが、2月に普通自動車や軽自動車などを中心に増加している。化学は、アジア市況の好転からポリエチレンやポリスチレンなどの汎用樹脂に下げ止まりの兆しがみられる。



(備考) Pは速報値。

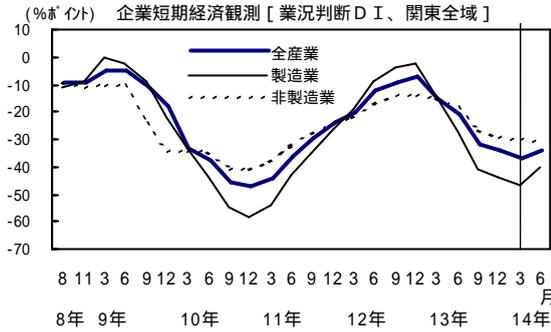
域内主要業種の動向(季節調整値、前期比増減率) (%)

	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		10~12 月期	1~3 月期	1~3 月期	1~3 月期
電気機械	23.6	5.7	1.1	0.2	11.1
化学	13.2	0.6	2.7	0.4	5.0
一般機械	12.0	6.0	2.0	1.2	5.7
輸送機械	11.3	4.7	1.3	1.7	3.6
食品・たばこ	5.8	2.7	0.0	0.7	10.1
鉱工業	100.0	3.3	0.7	0.5	4.9

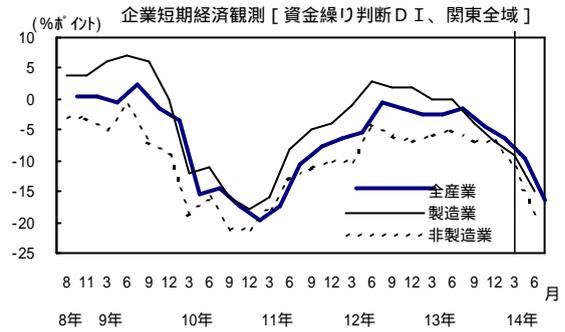
(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。

2. 1~3月期は速報値。

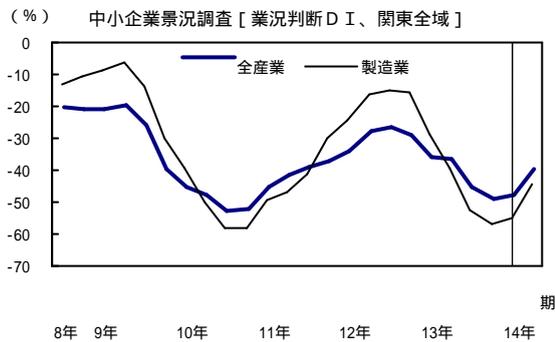
(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が、資金繰り判断は「苦しい」超幅がそれぞれ拡大している。
 企業短期経済観測調査 [業況判断D I、資金繰り判断D I] 及び中小企業景況調査 [業況判断D I]



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。6月は予測。



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。6月は予測。



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。14年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査 (4月調査) [企業動向関連 (現状判断)]

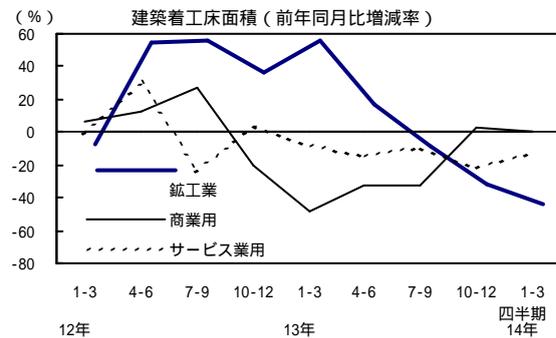
「取引先の売上の回収で、待たされることが若干少なくなった反面、支払いでは、現金での支払い要求が多くなっている (金融業)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(3) 設備投資の13年度実績見込みは12年度実績を上回っている。

企業短期経済観測調査 [設備投資 (3月調査、関東全域)]
 (前年度比増減率、単位：%)

	13年度実績見込み	14年度計画
全産業	2.6 (0.9)	1.9
製造業	3.8 (0.9)	9.5
非製造業	3.5 (0.9)	1.0

(備考) ()は前回 (12月) 調査比修正率。



2. 需要の動向

(1) 個人消費はやや弱含んでいる。

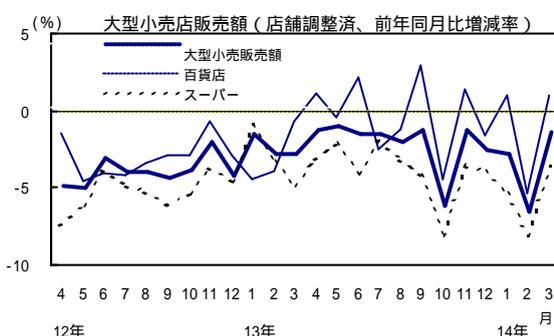
大型小売店販売額及び乗用車新規登録・届出台数

百貨店は、1月は営業日数の増加やリニューアル、催事及びセール効果などにより、前年を上回った。2月は暖冬で冬物セールが低調であったことや一部に改装工事の影響がみられたことから前年を下回った。3月はリニューアルやセール効果に加えて、高めの気温により季節衣料が好調だったことから前年を上回った。

スーパーは、暖冬により冬物関連商品が伸び悩んだが、3月は気温が高めに推移したことから春・初夏物衣料に好調な動きがみられた。また、消費者の低価格指向などにより、殆どの商品が前年を下回る傾向が続いている。

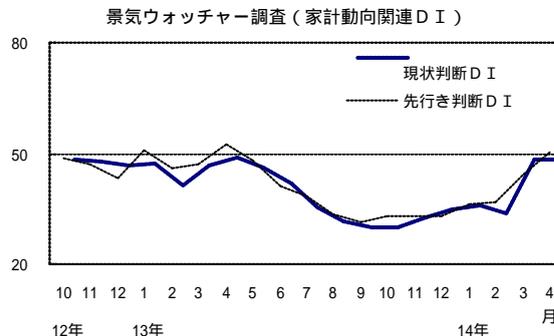
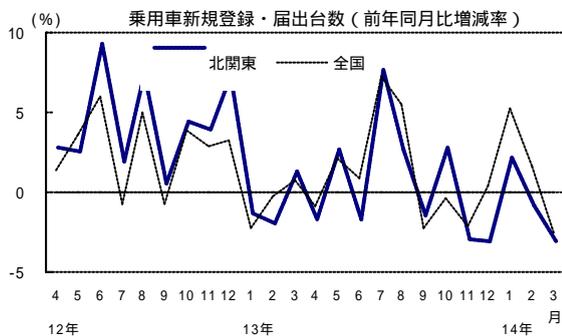
景気ウォッチャー調査(4月調査)[家計動向関連D I (現状判断)]

「食品中心に低迷していた商品単価が、食品では完全に下げ止まり、衣料でも徐々に下げ止まりつつあり、底を打った感がある(スーパー)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。



	(前年同期比増減率、単位：%)			
	13年4-6月	7-9月	10-12月	14年1-3月
大型小売店	1.8	2.2	3.9	4.1
百貨店	0.9	0.5	1.6	0.8
スーパー	3.1	3.0	5.1	5.6
乗用車	1.3	2.0	2.2	2.1
景気ウォッチャー	41.5	28.3	28.7	35.2

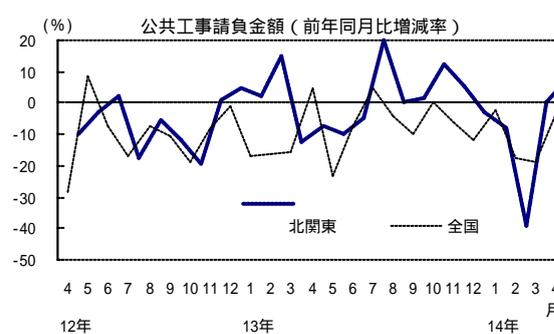
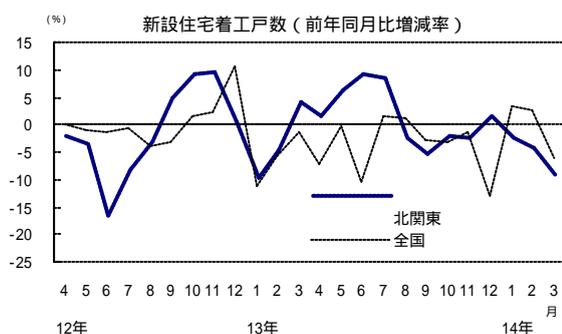
- (備考) 1. 大型小売店販売額は店舗調整済。
2. 景気ウォッチャー調査の数値は家計動向関連の現状判断D Iの3か月単純平均。



(2) 住宅建設は減少している。

持家を中心に前年を下回っている。

(3) 公共投資は前年を下回っている。

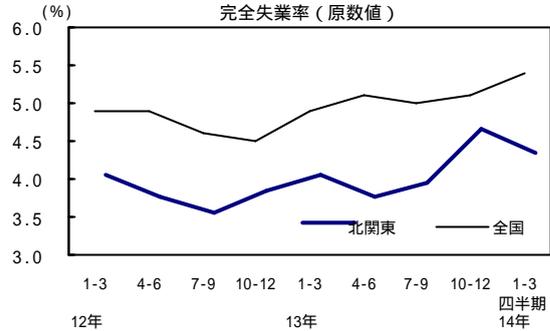
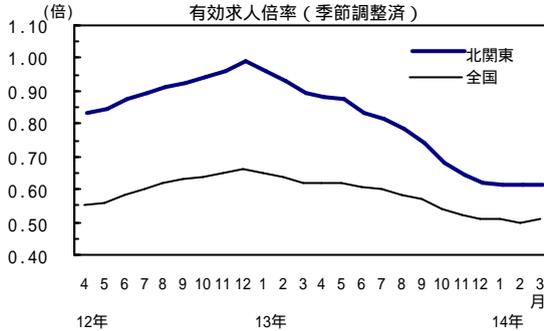


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は依然として厳しい。

有効求人倍率及び完全失業率

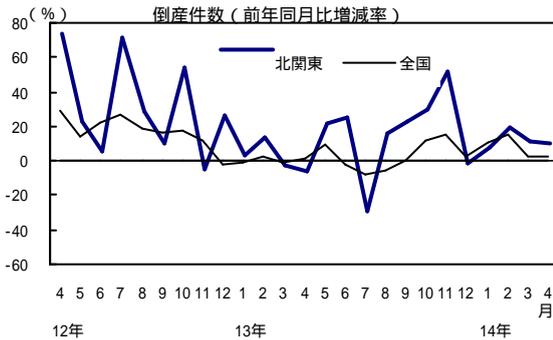
有効求人倍率はこのところ横ばいとなっている。完全失業率は、前年同期をわずかに上回っている。



景気ウォッチャー調査(4月調査)[雇用関連(現状判断)]

「周辺の中小企業で、希望退職者を十数人から数百人募っている製造業が多く、求職者増加の悪循環に陥っている(求人情報誌製作会社)」などの理由から「変わらない」とする回答が多くみられた一方で、「4月に入り、派遣登録の希望者が急増している。業務内容、賃金への不満による派遣先の変更希望ではなく、年度末で契約を打ち切られた結果である。特に、40~50歳の働き盛りの男性で、登録が目につく(人材派遣会社)」などの理由から「やや悪くなっている」とする回答もみられた。

(2) 企業倒産は件数、負債総額とも増加している。



	(件、億円、%)				
	13年4-6月	7-9月	10-12月	14年1-3月	4月
倒産件数	262	242	299	253	94
(前年比)	3.6	6.9	18.7	5.0	2.2
負債総額	881	1,380	1,885	1,977	374
(前年比)	28.4	16.0	31.3	37.6	1.0

景気ウォッチャー調査(4月調査)[合計DI(特徴的な判断理由)]

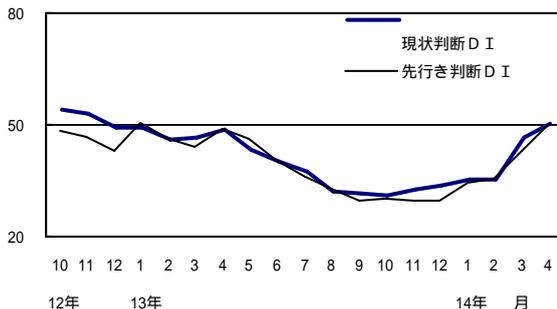
<現状>

- ・電車やバスを利用するため、早めに帰る花見客が目立ち、タクシーの利用は少ない(タクシー運転手)。
- ・食品中心に低迷していた商品単価が、食品では完全に下げ止まり、衣料でも徐々に下げ止まりつつあり、底を打った感がある(スーパー)。

<先行き>

- ・民間金融機関の融資が非常に厳しく、客が買う気になっても、ローンが組めずにキャンセルとなるケースがかなり出ている。銀行の不動産担保の掛け目が低く、審査が厳しい。不動産が動かず、動かないから値段が下がる悪循環が起こっている(住宅販売会社)。

景気ウォッチャー調査(合計DI)



(4) 南 関 東



南関東地域では、景気は下げ止まっている。

- ・ 鉱工業生産はおおむね横ばいとなっている。
- ・ 個人消費はおおむね横ばいとなっている。
- ・ 住宅建設はおおむね横ばいとなっている。

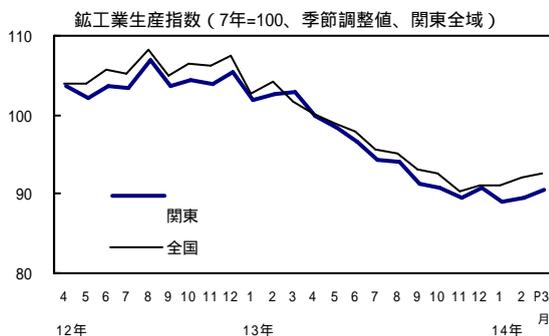
前回調査からの主要変更点

	前回 (平成 14 年 2 月)	今回 (平成 14 年 5 月)	
総括表現	一段と悪化している	下げ止まっている	
鉱工業生産	大幅に減少	おおむね横ばい	
個人消費	やや弱含み	おおむね横ばい	
住宅建設	減少	おおむね横ばい	

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産はおおむね横ばいとなっている。(関東全域)

電気機械は、セパレート形エアコンや半導体関連などの在庫調整が一巡し、生産や出荷に下げ止まりの兆しがみられる。一般機械はこのところ一進一退で推移しているが、3月は半導体製造装置や印刷機械などを中心に前月比で増加した。輸送機械は基調としておおむね横ばいにあるが、2月に普通自動車や軽自動車などを中心に増加している。化学は、アジア市況の好転からポリエチレンやポリスチレンなどの汎用樹脂に下げ止まりの兆しがみられる。



(備考) Pは速報値。

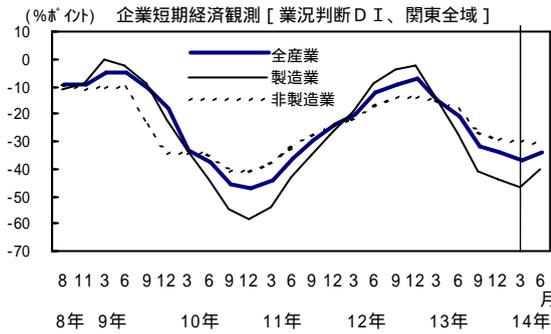
域内主要業種の動向(季節調整値、前期比増減率) (%)

	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		10~12 月期	1~3 月期	1~3 月期	1~3 月期
電気機械	23.6	5.7	1.1	0.2	11.1
化学	13.2	0.6	2.7	0.4	5.0
一般機械	12.0	6.0	2.0	1.2	5.7
輸送機械	11.3	4.7	1.3	1.7	3.6
食品・たばこ	5.8	2.7	0.0	0.7	10.1
鉱工業	100.0	3.3	0.7	0.5	4.9

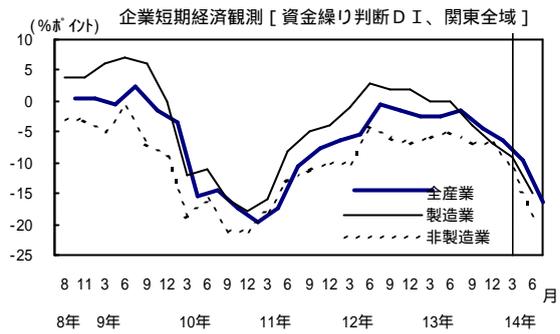
(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い15業種

2. 1~3月期は速報値。

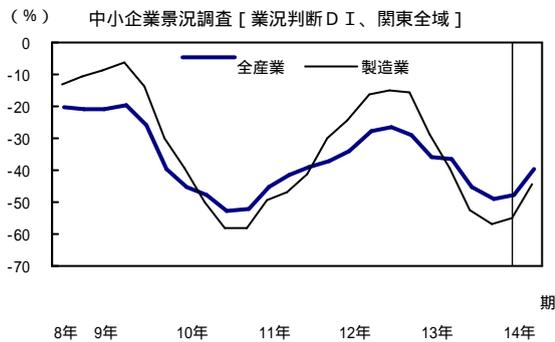
(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が、資金繰り判断は「苦しい」超幅がそれぞれ拡大している。
 企業短期経済観測調査 [業況判断D I、資金繰り判断D I] 及び中小企業景況調査 [業況判断D I]



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。6月は予測。



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。6月は予測。



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。14年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査 (4月調査) [企業動向関連 (現状判断)]

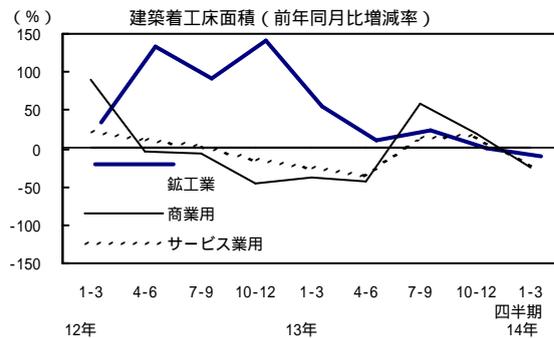
「仕事量は確保されているが、原価割れをするような案件もかなりある (一般機械器具製造業)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(3) 設備投資の13年度実績見込みは12年度実績を上回っている。

企業短期経済観測調査 [設備投資 (3月調査、関東全域)]
 (前年度比増減率、単位：%)

	13年度実績見込み	14年度計画
全産業	2.6 (0.9)	1.9
製造業	3.8 (0.9)	9.5
非製造業	3.5 (0.9)	1.0

(備考) ()は前回 (12月) 調査比修正率。



2. 需要の動向

(1) 個人消費はおおむね横ばいとなっている。

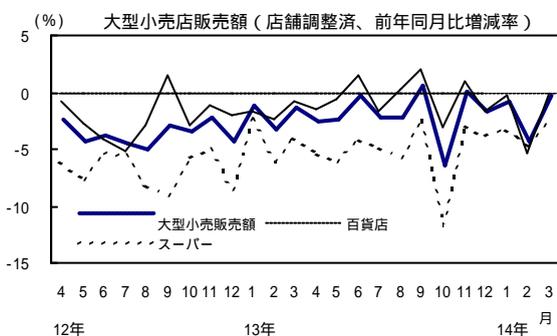
大型小売店販売額及び乗用車新規登録・届出台数

百貨店は、1月は暖冬により冬物関連商品が伸び悩んだものの、ブランド靴やブランドバック、アクセサリなど身の回り品が引き続き好調であった。2月は暖冬で冬物セールが低調であったことや一部に改装工事の影響がみられたことから前年を下回った。3月は大口需要の減退や分社化の影響等があったものの、リニューアル効果や婦人・子供服洋品で春・初夏物衣料に好調の動きがみられたことから、前月より水準を戻した。

スーパーは、暖冬により冬物関連商品が伸び悩んだが、3月は気温が高めに推移したことから春・初夏物衣料に好調な動きがみられた。

景気ウォッチャー調査(4月調査)[家計動向関連D I(現状判断)]

「好調だった3月の反動で、主力の衣料品が振るわず、苦戦している。ただし、数か月のサイクルでみると、顧客の購買姿勢は相変わらず慎重であり、大きな変化はみられない(百貨店)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

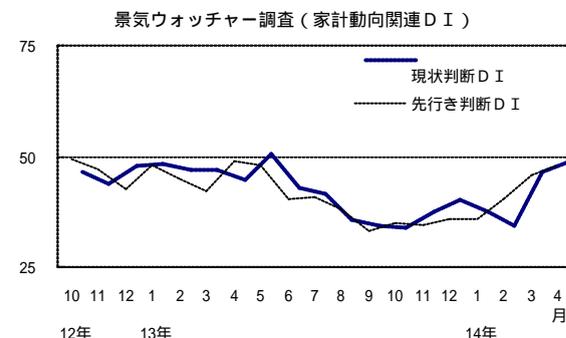
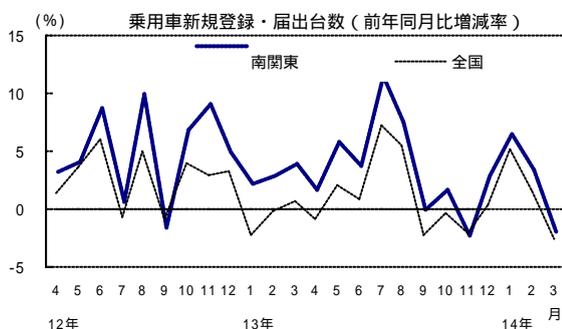


(前年同期比増減率、単位：%)

	13年4-6月	7-9月	10-12月	14年1-3月
大型小売店	2.6	2.2	3.4	2.5
百貨店	0.2	0.0	1.2	1.6
スーパー	5.1	4.4	5.9	3.4
乗用車	2.4	4.8	0.7	0.3
景気ウォッチャー	42.5	33.7	33.6	36.0

(備考) 1. 大型小売店販売額は店舗調整済。

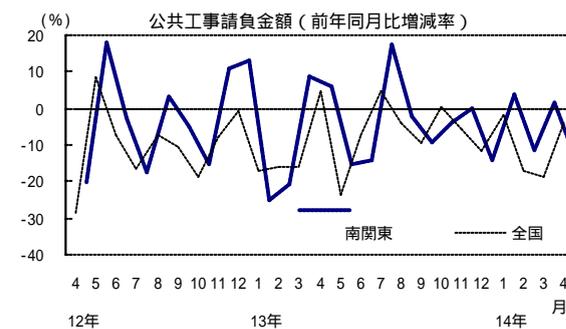
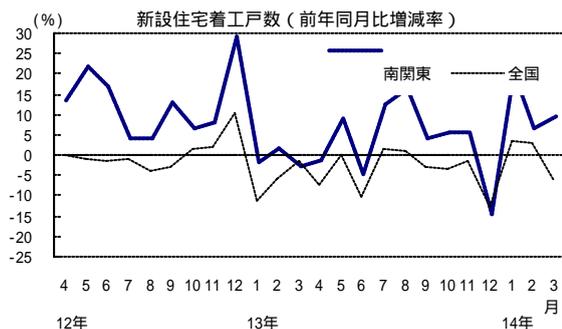
2. 景気ウォッチャー調査の数値は家計動向関連の現状判断D Iの3か月単純平均。



(2) 住宅建設はおおむね横ばいとなっている。

持家が前年を下回ったものの、貸家、分譲が上回ったことから、おおむね横ばいで推移している。

(3) 公共投資は前年を下回っている。

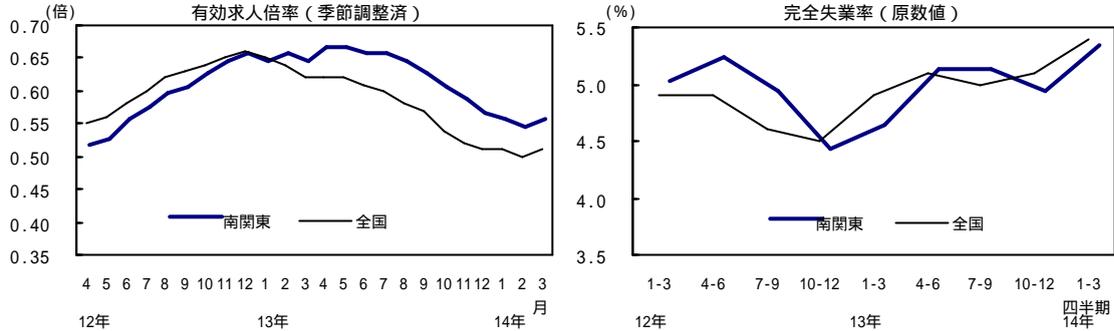


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は依然として厳しい。

有効求人倍率及び完全失業率

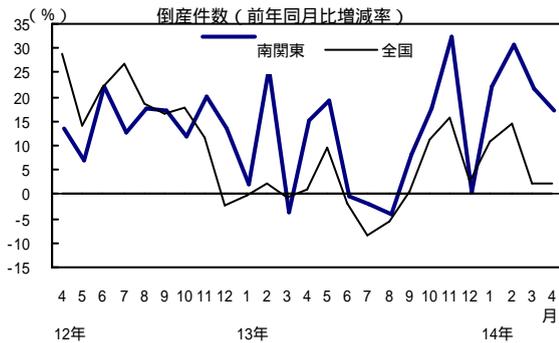
有効求人倍率はおおむね横ばいとなっている。完全失業率は、前年同期を上回り、高い水準にある。



景気ウォッチャー調査(4月調査)[雇用関連(現状判断)]

「企業は、常用で質の高いスキルのある人材を求めている。しかし、来所する求職者は自分の都合に合わせて働きたいフリーターが多く、雇用に結び付かないケースが多い(人材派遣会社)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(2) 企業倒産は件数、負債総額とも増加している。



	(件、億円、%)				
	13年4-6月	7-9月	10-12月	14年1-3月	4月
倒産件数	1,389	1,337	1,554	1,589	522
(前年比)	8.4	2.1	13.8	22.1	14.5
負債総額	10,079	10,699	25,511	23,476	4,690
(前年比)	67.5	69.9	71.8	19.1	38.7

景気ウォッチャー調査(4月調査)[合計DI(特徴的な判断理由)]

<現状>

- ・来客数の落ち込み、客の低価格志向は続いているが、一方で、高品質かつ高単価の商品の動きも良くなっている(その他専門店[眼鏡])
- ・長距離客は相変わらず少なく、短距離の客が増加しており、総じて変わらない(タクシー運転手)

<先行き>

- ・インターネットを通じて、商品を選択、購入する客が増加しており、今後もこの傾向は続く(家電量販店)

